

# 図書館だより

第15号

八千代市立大和田図書館 482-3240

八千代台図書館 482-0912

勝田台図書館 484-4946

緑が丘図書館 489-4946

ホームページ <http://www.library.yachiyo.chiba.jp>

## スローライフをはじめませんか

“スローライフ”という言葉を目にしたことがありますか。

“スロー”という言葉は英和辞典で引いてみると、遅い・遅れている・鈍いなど、どれも否定的な意味が並んでおり、スピードと効率が最優先される生活からは、かけ離れた言葉ともいえるでしょう。でも、今、いろいろな分野で“スロー”が見直されてきています。

### ○スローフードな人生

島村菜津 著

スローフード運動はイタリアの小さな町から始まり、世界中に広がりました。この本で、スローフード運動の真髄に触れ、イタリアの食文化に出会えます。

### ○「がんばらない」宣言

とよだもとゆき 著

必死に「がんばって」きたライフスタイル。息切れしていませんか？  
今までとは異なった生活・人生などを描く指針となる本です。

### ○スロー・イズ・ビューティフル

辻信一 著

“スロー”をキーワードに人と自然、人と人とのつながりを再発見させてくれます。  
“スロー”って素晴らしいと考えさせられる一冊です。

### ○スロートラベル各駅下車で行こう！

カベルナリア吉田 文・写真

日常生活から離れ、思い切ったのんびりゆっくり、各駅停車の旅はいかがでしょう。  
全国12のローカル線が紹介されています。

たまには、遠回りして、図書館へ来てみませんか？

新しい出会いや思いがけない発見があるかもしれません。

そして、お気に入りの**本の世界**にゆったり浸る、これこそ、究極の“スローライフ”と言えるかもしれないですね。

## 11月からの新しいお札の顔 ご存知ですか？

### 樋口一葉

新5000円札の表の顔です。  
明治5年現在の東京都千代田区に生まれる。本名は奈津。明治19年歌人中島歌子の〈萩の舎〉に入り、才能を開花させる。父の死により小説を書き始めるが、生計を支えられずに、針仕事や小間物屋を開きながら、執筆を続けるが、明治29年に24歳で肺結核で他界。代表作は「にごりえ」「十三夜」「たけくらべ」など。

### 野口英世

新1000円札の表の顔です。  
明治9年福島県猪苗代町に生まれる。初めの名は清作。1歳半の時囲炉裏に落ち左手に大やけどをおう。16歳の時、手術を受けたことから、医学の道を志す。北里柴三郎の伝染病研究所勤務を経て、明治33年単身渡米し、ロックフェラー医学研究所所員となり、梅毒・毒蛇などの研究で業績を残したが、昭和2年黄熱病に感染し、ガーナのアクラで殉職する。

#### <樋口一葉>について

『一葉語録』  
『姉の力樋口一葉』  
『ひとひらの舟』  
『樋口一葉日記を読む』  
『樋口一葉「いやだ！」と云ふ』  
『一葉の雲』

#### <野口英世>について

『正伝野口英世』  
『野口英世—  
21世紀に生きる』  
『野口英世  
知られざる軌跡』  
『遠き落日』

#### 一葉記念館

女流文学者の単独館として初めて台東区が開館。  
処女作「闇桜」原稿や「たけくらべ」草稿、旧宅の模型などが展示されています。  
11月23日の一葉の命日には“一葉祭”が開催されます。

所在地 東京都台東区竜泉3丁目18番4号

#### 野口英世記念館

福島県の猪苗代湖畔に昭和14年に開館。  
やけどをおった囲炉裏をはじめ、生家が移築されています。  
生涯を年代順に分け、遺品や参考資料が展示されています。

所在地 福島県猪苗代町三ツ和前田81

## お札の話 Q & A

- Q、日本の最初のお札は？ A、慶長年間伊勢商人の間で流通した「山田羽書」
- Q、初の肖像入りは？ A、明治14年の政府紙幣「神功皇后札」
- Q、お札の寿命は？ A、一万円札で3～4年、五千円・千円札で1～2年。
- Q、新しくお札を発行するのは何故？ A、偽造防止のため。
- Q、どこで製造されているの？ A、国立印刷局。造幣局ではありません。
- Q、肖像画に一番多く登場したのは？ A、聖徳太子で7回。
- Q、紙以外のお札は？ A、西南戦争の時に西郷軍が発行した「西郷札」は布製。
- Q、11月から一万円札も新しくなる？  
A、変わります。大きな変化は『裏』のキジが鳳凰像に。
- Q、古いお札は見られますか？ A、【貨幣博物館】や【お札と切手の博物館】  
に展示されています。

毎日使用しているお札を、じっくりご覧になったことはありますか？

凹版印刷や特殊インクなど偽造防止にさまざまな技術が駆使されており、昭和59年以降は、目の不自由な方への配慮として識別マークも入れられています。

ざらざらとした感触や「すかし」を手と目でお楽しみください。

* 参考文献	『日本通貨図鑑』		日本専門図書出版
	『紙幣肖像の歴史』	植村峻	東京美術
	『贋札の世界史』	植村峻	日本放送出版協会
	『日本の紙幣』	山口和雄	保育社
	『古銭と紙幣』	矢部倉吉	金園社

### 季節の歳時記 東京浅草の「酉の市」

毎年11月の「酉の日」鷲神社の境内は「かっこめ」と言われる熊手御守や縁起物の熊手を買い求める人々で一日中賑わいます。開運・商売繁盛を祈願する盛況ぶりは、樋口一葉の「たけくらべ」にも描写されています。今年は「酉の日」が三回あります。昔から、“三の酉まである年は火事が多い”と言われています。火を使うことが増える季節柄、くれぐれも火災には気をつけたいものです。ちなみに、今年の「酉の日」は、2・14・26日です。

【春を待つ ことのはじめや 酉の市】 其角

## 読まれています ・ ・ ・ 予約の多い本（10月25日現在）

	書名	著者	出版社	人数	予約日
1	バカの壁	養老孟司	新潮社	74	8月16日
2	グロテスク	桐野夏生	文芸春秋	69	8月11日
3	世界の中心で、愛をさけぶ	片山恭一	小学館	59	9月7日
4	誰か	宮部みゆき	実業之日本社	54	11月18日
5	星々の舟	村山由佳	文芸春秋	42	9月2日
6	ブレイブ・ストーリー 上・下	宮部みゆき	角川書店	40	6月21日
7	クライマーズ・ハイ	横山秀夫	文芸春秋	40	9月19日
7	祇園の教訓	岩崎峰子	幻冬舎	38	9月9日
9	さらば外務省！	天木直人	講談社	37	10月29日
10	無名	沢木耕太郎	幻冬舎	33	10月13日
11	影踏み	横山秀夫	祥伝社	33	11月18日
12	Escape	内田康夫	徳間書店	31	10月9日

### リサイクルブックフェアのお知らせ

11月27日（土）9時30分から、教育委員会1階の会場で、市内4つの図書館合同のリサイクルブックフェアを行います。図書館からの除籍本と、市民の方からの寄贈本を皆様にお分けいたします。どうぞ、お気軽においでください。

### おすすめの作家

**松本清張** 誰でも知っている日本の社会派ミステリー界の第一人者です。ミステリーのみならず、日本史にも造詣が深いことでも知られています。没後12年過ぎても、その根底にあるものは今も変わりません。今年の「砂の器」、今年の「黒革の手帖」と作品が続けてテレビドラマ化されるのも、いつの時代でも新しい魅力にあふれ、幅広い年代層から支持されている証拠でしょう。どの作品から読み始めても満足していただける作家のひとりと言えるでしょう。

“鍋料理”が恋しい季節になりました。チゲ鍋やキムチ鍋など、韓国料理で冬ソナブームにあやかってみてはいかがでしょうか。

#### 図書館だより 第15号

\* 編集 八千代台図書館  
八千代市八千代台北6-7-6  
TEL047-482-0912

\* 発行日 平成16年10月